

美をつくし

vol. 195

大阪市立美術館だより
令和3年3月1日発行



蒋廷錫《藤花山雀图》(部分) 清時代 本館蔵(阿部コレクション)

MI WO TSUKUSHI
WI MO IZUKUSHI

豊臣の美術

2021年4月3日(土)—5月16日(日)



1



2



3



4



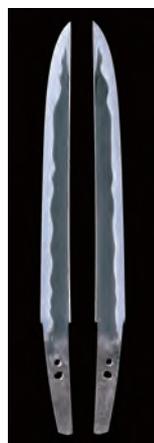
5



6

桃山の夢ひろく トヨトミ

- 1 重要文化財 《豊臣秀吉像》 慶長3年(1598)賛 京都・高台寺
- 2 重要文化財 《唐物茶壺 銘 松花》 大名物 中国 南宋・元時代・13-14世紀 徳川美術館(©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPpartcom)
- 3 《蜻蛉燕文様陣羽織》 桃山時代・16世紀 大阪城天守閣
- 4 岡山市指定文化財 《道中風呂道具(風呂桶)》 江戸時代・17世紀 木下家
- 5 重要文化財 《四季花木図襖》 狩野光信筆 慶長5年(1600) 滋賀・園城寺
- 6 重要文化財 《醍醐花見図屏風》(部分) 桃山時代・16-17世紀 国立歴史民俗博物館
- 7 国宝 《短刀 銘 左/筑州住(号じゅうらく(太閤左文字))》 南北朝時代・14世紀 ふくやま美術館



7

日本史上もっとも立身栄達をきわめた人物はだれか、と問われたら、大多数の人が最初に名前をあげる人物、それは「豊臣秀吉」ではないでしょうか。織田信長の遺志を継いで全国統一をなしとげ、大坂に政治拠点を選んだ天下人・秀吉とその一族は、強大な権勢と富を手中におさめ、絢爛豪華な桃山文化を隆盛へと導きました。16世紀末から17世紀初頭のわずか30年たらずの短い期間でしたが、豊臣氏がリードした文化創造のトレンドは、人々の美意識に大きな変革をせまり、桃山美術の潮流を醸成する原動力となりました。

大坂の陣で敗れて滅亡の道をたどった豊臣氏に直接関わる美術工芸関係の遺品は、勝者である徳川氏のそれに数的には及ぶべくもありません。しかしながら、関係寺社、皇族・貴族、恩顧の

大名らのもとを経て、少なからぬ優品が今日まで伝えられています。秀吉の神格化にかかわる多数の肖像、秀吉夫妻の遺愛品である優美な蒔絵調度(高台寺蒔絵)をはじめ、唐物茶道具、刀剣など一族が収集した名物の数々、あるいは御用絵師・狩野派による寺院障壁画や太閤秀吉を追慕する風俗画まで、古文書、甲冑類を除いても、その内容は実に多彩です。

本展では、これら豊臣ゆかりの品々から、国宝3件、重要文化財22件を含む約80点の精華をよせ、激動の時代を映す壮麗な造形をご紹介します。桃山の「夢」をひらいた、天下人の大いなる威光と美意識をご体感いただけることでしょう。

(知念 理)

ようしゅうはっかい 揚州八怪

2021年6月12日(土)—8月15日(日)

[前期] 6月12日(土)—7月11日(日) / [後期] 7月13日(火)—8月15日(日)

中国最大の河川である長江の下流・揚子江。その北岸に栄えた揚州は、古くから水運交通の要衝であり、国際的な商業都市として華やき、文化人の往来する香り高い風流の地でした。唐代の高僧・鑑真(688-763)の故郷としても、わたしたち日本人に親しみの深い都市です。本展では、清時代18世紀を中心に、この都市を舞台として活躍した「揚州八怪」と呼ばれる一群の書画家に焦点を当てます。

清朝は康熙・雍正・乾隆三帝の治世に最盛期を迎え、このころ揚州の経済活況は天下にとどろき、巨富を築いた塩商が支援者となって文化サロンが数多く形成されました。文士墨客がさかんに往来し、ここに現れたのが金農(1687-1763)や鄭燮(1693-1765)ら「揚州八怪」でした。揚州八怪とは、揚州を舞台に優れた

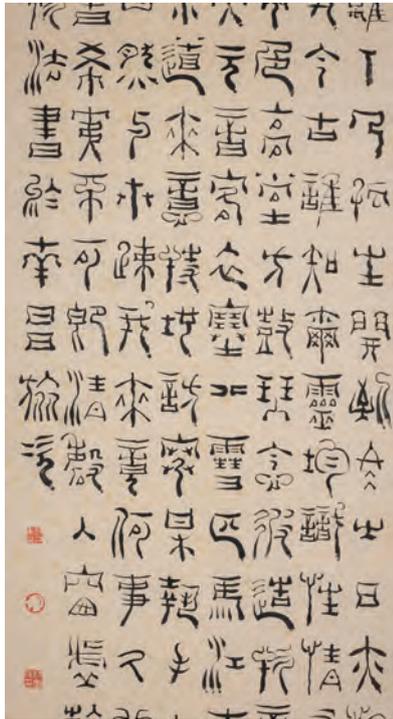
才能を発揮した“8人”の書画家の呼称です。「怪」とは人並はずれていることをほめる意味で使われています。なお後世の評論家がこの8人を選ぶとき、人によって多少の違いがあったため、揚州八怪にかぞえられた者は総じて15人います。彼らはみな教養深く詩書画に通じ、伝統的な規矩に囚われず、自由な表現によって芸苑に新風を吹き込みました。

このたび、中国屈指の収蔵を誇る上海博物館の協力を得て35件を借用し、日本国内の作品とあわせて約100点を展覧して揚州八怪の全容に迫ります。中国書画の伝統を近代まで切り開いた、先進的な彼らの芸術の魅力を存分にお楽しみいただきたいと思います。

(森橋なつみ)



1



2



3



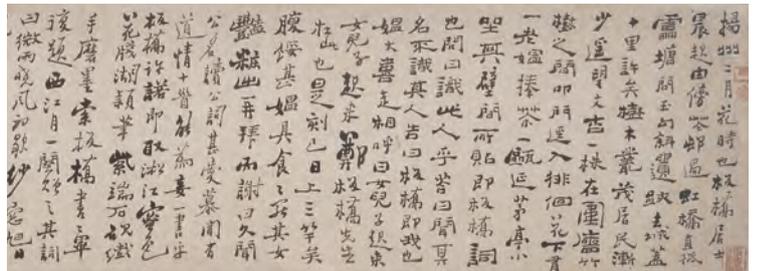
4



5



6



7

- 1 李方庸《風竹圖》 上海博物館
- 2 楊法《篆書詩》(部分) 上海博物館
- 3 黃慎《仙子漁者圖》 大阪市立美術館
- 4 高鳳翰《山水人物冊》うち一面 大阪市立美術館
- 5 金農《山水人物冊》うち一面 上海博物館
- 6 辺寿民《花卉八頁卷》(部分) 上海博物館
- 7 鄭燮《行書揚州雜記》(部分) 上海博物館

桃山へ、桃山から 中近世工芸の諸相

2021年4月3日(土) - 5月16日(日)

館蔵・寄託品より桃山時代の作品を中心として室町時代から江戸時代にかけての工芸品をご紹介します。下剋上から天下統一、そして成熟した江戸文化へと価値観が大きく転換したこの時代。美意識の変遷を工芸品でたどります。特別展「豊臣の美術」とあわせてご堪能ください。



《金銅装 蓮華文香炉箱》
室町時代・天文22年(1553) 滋賀・成菩提院蔵

戦国武将像

2021年4月3日(土) - 5月16日(日)



《豊臣葉丸像》(部分)
桃山時代・16世紀 京都・妙心寺蔵

特別展「豊臣の美術」の開催にあわせて、社寺寄託作品を中心に、戦国武将像を特集します。豊臣一族、豊臣家家臣とゆかりの婦人らのほか、織田氏、徳川氏周辺の武将もとりあげ、桃山人らの生涯を彩った「夢」に思いをはせます。

しゅんかようよう 春夏養陽 — 中国の書画 —

2021年4月3日(土) - 5月16日(日)



張賜寧《桑蚕詩意図》(部分)
清時代・17-18世紀 本館蔵

中国の古代思想において、世界は「陰」と「陽」のバランスによって成り立っていると考えられてきました。四季の巡行もまた陰陽のはたらしとされ、春になると陽の気が起きはじめて草木が芽吹き、夏になると陽気が最大になって成長を促すといわれています。本展では力強く生命感にあふれる春夏を主題として中国書画をご紹介します。

ちようこくじこう 雕刻時光 北魏の石造仏教・道教彫刻

2021年4月3日(土) - 5月16日(日)

当館の誇る山口コレクション中国彫刻の優品を中心に、南北朝時代の北魏そして続く西魏・東魏(5-6世紀)に造られた仏像・道教像を展示いたします。



《石造 如来坐像》
北魏天安元年(466) 本館蔵(山口コレクション)

受贈記念 アンコール・ワットの拓本

2021年4月3日(土) - 5月16日(日)

アンコール・ワットは、カンボジアに興ったアンコール朝の首都にあるヒンドゥー教寺院です。12世紀初め、スールヤバルマン2世により建立されました。均整美を見せる構造や壁を飾る優美な浮彫装飾が世界中の人々を引き付けています。

このたび、アンコール・ワット拓本保存会が4度にわたり採取した浮彫装飾の拓本を、当館へご寄贈いただきました。受贈を記念し、貴重な拓本を公開いたします。



《火を消す聖鳥ガルダ》
アンコール時代・12世紀 本館蔵

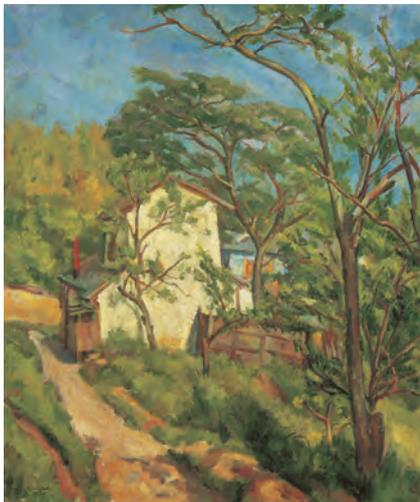


《大蛇ヴァースキーを引くアスラ》
アンコール時代・12世紀 本館蔵

大阪の洋画

2021年6月12日(土)－8月15日(日)

山内愚僊に始まる大阪の洋画は、松原三五郎、赤松麟作が画壇の基礎を形成した後、小出樞重らがモダニズムの新風を巻き起こし、画壇にさらなる活気をもたらしました。大阪近代を彩った洋画家たちの軌跡をふりかえり、戦後へ続く流れをたどります。



国枝金三《せんだんの木のある家》
大正10年(1921) 本館蔵

秀麗精緻 明清時代の工芸

2021年6月12日(土)－8月15日(日)

特別展「揚州八怪」の開催にあわせ、館蔵・寄託品から中国明・清時代の工芸品をご紹介します。色彩豊かで秀麗



《豆彩 蓮池鸞鶴文鉢》
中国 清時代・道光期(1821-50)
本館蔵(原尻氏寄贈)

な陶磁器をはじめ、精緻な表現が施された彫漆・螺鈿など揚州八怪らの目をも楽しませたかもしれない工芸の数々で、文人世界の一端を追体験します。

特集展示

美の殿堂の85年

大阪市立美術館の展示室

2021年6月12日(土)－8月15日(日)

当館は2022年度以降に大規模な改修を計画しています。ここではあえて作品を展示せず、昭和11年(1936)開館当時の面影を留める展示室と展示ケース自体をご覧ください。85年の歴史を偲びつつ、新たな美術館の姿に思いをはせる、またとない機会です。改修を前に、感謝と期待を込めて。



《大阪市立美術館 展示室》
昭和11年(1936)開館

小出三郎

2021年7月13日(火)－8月15日(日)



小出三郎《木の根》 昭和32年(1957)
本館蔵(小出君子氏寄贈)

小出三郎(1908-67)は大阪市出身の洋画家です。天王寺中学校卒業後、信濃橋洋画研究所で指導を受け、戦前、戦後を通じて独立展で活躍しました。近年寄贈を受けた小出三郎の風景、裸婦などの油彩作品と関係資料をご紹介します。

社寺縁起 — 聖なるファンタジー

2021年9月4日(土)－10月24日(日)

社寺草創の由来、祀られた神仏の霊験を語るさまざまな社寺縁起関連作品を、館蔵および寄託作品あわせて大公開します。神仏と人との間に起こった摩訶不思議な出来事＝聖なるファンタジーの世界をどうぞお楽しみください。



《大寺縁起絵巻》(下巻・部分) 江戸時代・17世紀 本館蔵(田万コレクション)

いぐち きんどう 井口古今堂と近代大阪

— 船場の表具師と芸術ネットワーク —

2021年9月4日(土)－10月24日(日)

井口古今堂は、天保元年(1830)曾根崎に創業し、慶應年間から船場を拠点として5代にわたって活躍した表具の老舗です。住友家、藤田家をはじめ在阪名家の仕事を多数手掛けました。またみずからも画事、煎茶、俳諧などひろく文芸に通じ、コレクターや船場の画家たちが出入りする文化サロンとしての役割をも演じました。近年の調査の成果を踏まえ、井口古今堂を中心とした近代大阪の芸術文化の躍動をご紹介します。

特別展予告

千四百年御聖忌^{こせい忌}記念特別展「聖徳太子」

2021年9月4日(土) - 10月24日(日)

令和4年(2022)、聖徳太子(574-622)が没して1400年目を迎えます。

飛鳥時代、聖徳太子は推古天皇の摂政として十七条憲法の制定や遣隋使の派遣など、日本史上重要な事績をのこすと共に、仏教を篤く信仰し大阪・四天王寺をはじめとする多くの寺院を建立しました。そのため、聖徳太子は日本における仏教の礎を築いた人物として、その没後より今日にいたるまで、宗派をこえて人々の信仰をあつめています。

聖徳太子に対する人々の篤い信仰のなかで、礼拝の対象とすべくその姿が造形化されていきます。その中で、聖徳太子の伝記に記される多くのエピソードを大画面に描く太子絵伝や、愛らしい2歳、凛々しい16歳の姿などの様々な肖像が生み出されました。

本展覧会は大阪随一の古刹・四天王寺の宝物を中心に、聖徳太子の生涯をたどり、太子への信仰が生み出した造形の数々を紹介いたします。



重要文化財 《聖徳太子絵伝》第2幅(部分) 大阪・四天王寺蔵
聖徳太子16歳の時、四天王像に戦勝を祈願する姿。

所蔵作品の貸出

他館への貸出を予定している当館の所蔵作品です。展示期間などの詳細は各施設へお問い合わせください。

《菩薩交脚像龕》(山口コレクション)

九州国立博物館(太宰府市)
2021年1月26日(火) - 3月21日(日)
奈良・中宮寺の国宝



島成園《無題》ほか 計2件

東京国立近代美術館(千代田区)
2021年3月23日(火) - 5月16日(日)
あやしい絵展 大阪歴史博物館にも巡回予定



長谷川等伯筆《鳥臯図屏風》

石川県七尾美術館(七尾市)
2021年4月24日(土) - 5月23日(日)

長谷川等伯展
～ 動物表現と北陸初公開作品を中心に ～



惲寿平《牡丹図》(花卉図冊のうち)ほか 計43件

国立故宮博物院(台北市)
2021年7月24日(土) - 9月21日(火)
遺珠 - 大阪市立美術館珍藏展 -



◆表紙作品紹介

蒋廷錫《藤花山雀図》(部分) 清時代 本館蔵(阿部コレクション)

咲き誇る藤の枝にあそぶ山雀(シロガシラ)。初夏の陽気に包まれたこの美しい作品を描いたのは、清の宮廷画家として活躍し、花鳥画の名手として知られた蒋廷錫です。左上には康熙帝による題詩も添えられ、宮廷にふさわしい品格ある絵画です。

新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策にご協力ください

<以下に該当される場合はご来館をお断りいたします>

- 37.5℃以上の発熱やせきなど風邪の症状があるお客様
- ご家庭や職場、学校など身近に新型コロナウイルス感染症の感染者、もしくは感染の可能性のある方がいらっしゃるお客様
- 体調がすぐれないお客様
- マスクをご着用いただけないお客様
- 団体でご入場のお客様

<館内でのお願い>

- こまめな手洗いにご協力をお願いします。各洗面所には液体石けんを、入口ほか各所に消毒液を設置しておりますので、ご利用ください。
- 近距離での会話は、飛沫感染の恐れがありますので、展示室内での会話はご遠慮ください。
- 展示室内の混雑を緩和するため、やむを得ず入場制限を行う場合があります。また、過度な混雑が見込まれる場合は、入場をお断りする場合があります。

従来とは異なる新たな鑑賞スタイルでご不便をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

大阪市立美術館 天王寺公園内

Osaka City Museum of Fine Arts

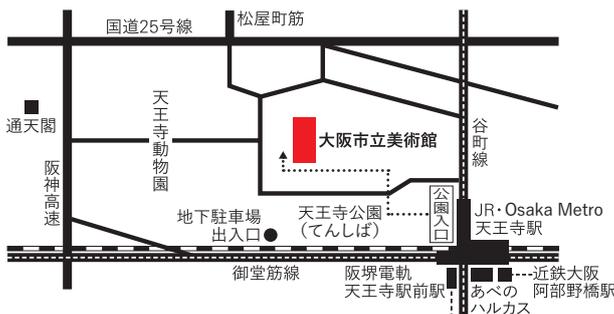
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856

https://www.osaka-art-museum.jp

開館時間=9:30~17:00(入館は16:30まで)

休館日=月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)



交通案内: Osaka Metro 御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または大阪シティバス「あべの橋」下車、北西へ約400m